

(尿所見が増強した例) は病初より生活規制が甘かった例に多くみられている。

c) 紫斑病性腎炎

そもそも経過は長いが、感染重複がない限り比較的予

後の良い疾患とされているものであるが、改善例と不変例を比較すると病初期の厳重な生活管理が有意の差を持って有利であることが認められた。

小児慢性腎炎における free Hydroxyproline の動態

新潟大学小児科 堀 薫
浅 見 直
渡 辺 繁 子

Hydroxyproline (以下 Hyp) はコラーゲンに含まれるアミノ酸で、身体発育に関与し、また膠原病、内分泌疾患、骨疾患などでその代謝異常がみられている。

1年以上遷延経過している腎疾患に於ける Hyp 代謝の検討は骨成長、内分泌機能活動など発育に関与する因子の一部をみることで患児の生活指導の parameter として有用と考えた。

小児慢性腎炎 56 例の尿中 free Hyp/creatinine 比と尿蛋白量は全体としては相関がみられなかった。しかし尿中 free Hyp/creatinine 比が高値を示した 16 例では尿蛋白量及び持続日数と相関する傾向がみられた。

図には post-acute stage of GN に於ける結果を示す。尿中 total Hyp に占める free Hyp は正常児 (2~3%) 以下に対し、小児慢性腎炎患児では (5~8%) と高値を示し、骨コラーゲン分解の亢進が推察された。血中クレアチニン値、BUN 値は全例正常範囲にあり、腎不全を思わせる症例はなかった。

薬剤 (Indomethacine, Cyclophosphamide, Dipyridamol) 投与による影響を尿中 free Hyp/creatinine 比が高値を示した 16 例について検討した。その結果、いずれ

の薬剤も尿中 free Hyp/creatinine 比の変化はおこさず、これらによる骨コラーゲン代謝への影響はないと思われた。

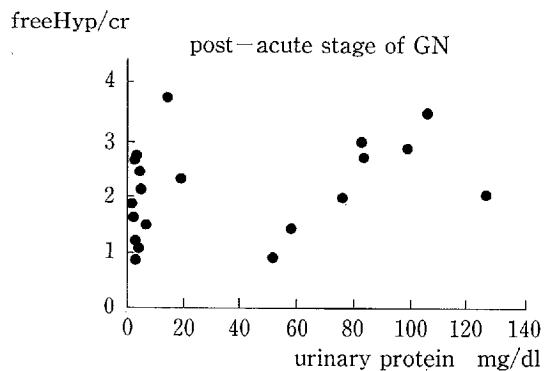


図 1 post-acute stage of GN 4 例 (5~13 才) の尿蛋白量と free Hyp/creatinine との関係 (1 例につき経過を追って 2~3 回測定)。

全体として尿蛋白量との相関はないが、尿蛋白量 40 mg/dl 以上の例では free Hyp/creatinine 比の相関がみられる。

検索用テキスト OCR(光学的テキスト認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

Hydroxyproline(以下 Hyp)はコラーゲンに含まれるアミノ酸で、身体発育に関与し、また膠原病、内分泌疾患、骨疾患などでその代謝異常がみられている。1年以上遷延経過している腎疾患に於ける Hyp 代謝の検討は骨成長、内分泌機能活動など発育に関する因子の一部をみることで患児の生活指導の parameter として有用と考えた。